

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 明治大学 経営学部 遠藤公嗣研究室
URL: <http://jasps.org/> TEL: 03-3296-2064 E-mail: endokosh@meiji.ac.jp
- ◇ 編集・発行 遠藤公嗣(代表幹事) 戸室健作(Newsletter 担当幹事) 塚原康博(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: jasps@worldpl.jp

《目次》

1. 第 136 回(2018 年度春季)大会のお知らせ
2. 第 136 回(2018 年度春季)大会実行委員会の挨拶
3. 第 137 回(2018 年度秋季)大会の開催予告および報告募集
4. 第 137 回(2018 年度秋季)大会実行委員会からのお知らせ
5. 第 135 回(2017 年度秋季)大会報告
6. 第 135 回(2017 年度秋季)大会会計報告
7. 次期幹事の辞退と補充について
8. 『学術の動向』について
9. 2016-2018 年幹事会報告
10. 2018-2020 年幹事会、第 1 回準備会報告
11. 承認された新入会員
12. 訂正

1. 第 136 回(2018 年度春季)大会のお知らせ

社会政策学会第 136 回大会は、2018 年 5 月 26 日(土)と 5 月 27 日(日)、埼玉大学で開催されます。第 1 日は、テーマ別分科会、自由論題、国際交流分科会などを行い

ます。報告の申込みはすでに締め切られており、テーマ別分科会・国際交流分科会として計 5 つの企画、自由論題として 14 報告が採択されました。すでに申込者の方には結果を通知しておりますのでご確認ください。さらに、若手研究者向けの教育セッションや学位取得者による博士論文報告会も開催します。また、第 2 日の共通論題は、「所得政策の現在」をテーマに行います。かつてインフレ下で賃金抑制政策として実施された所得政策に対し、賃金引き上げと所得保障を目指す新しい所得政策が注目されています。この現状と課題を明らかにするため、駒村康平会員を座長とし、久本憲夫会員、田宮遊子会員、山田篤裕会員、高須裕彦会員にご報告いただき、小越洋之助会員、百瀬優会員のコメントをもとに議論します。

(報告者の方へお願い)

分科会・自由論題報告のフルペーパーは電子化されております。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、期日までにフルペーパーを提出されるようお願いいたします。レジメなど当日配布資料等は開催校ではお預かりしませんので、宅急便等により開催校に送付されないようお願いいたします。

(春季大会企画委員会 榎 一江)

2. 第 136 回(2018 年度春季)大会実行委員会の挨拶

社会政策学会 2018 年度春季大会は、5 月 26 日(土)と 27 日(日)の両日、埼玉大学で開催されます。5 月 26 日にはテーマ別分科会ならびに自由論題が、27 日には「所得政策の現在」をテーマにした共通論題が、それぞれ開かれる予定です。

今回の開催校となる埼玉大学は、本学会と深い縁を保ってきております。本学会を代表するメンバーであられる故戸塚秀夫先生、兵藤釦先生、上井喜彦先生などが埼玉大学で研究教育活動に邁進されました。

埼玉大学は、首都圏に立地し、電車でのアクセスが非常に便利ですが、最寄り駅からキャンパスまでバスで移動しないといけないところが少し課題となります。これをクリアすべく、26 日(土)と 27 日(日)の朝の時間帯には最寄りの南与野駅から大学までのバスを増

便し、多少なりとも参加される方々の便宜を図りたい所存です。

今回の大会にあたって、埼玉大学としては、「伝統」と「革新」を兼ねた運営を試みたいと思っております。埼玉大学では、上記の方々が社会政策のよき伝統を築き上げてこられました。今は社会人と留学生たちが新しい流れを作るべく努力を積み重ねています。社会人博士およびその候補の学会員たちが、今回の大会運営をともに担うこととなります。なお、埼玉大学では、いまだに原生林が残っており、多くの人たちがそれを楽しんでいます。むろん、大会に参加される方々にも昼間そのなかを散策していただきたいですが、夕方はあえて大学の敷地から「脱出」し、大宮駅近くのお洒落なソニックシティにて懇親会を行いたいと思っております。懇親会の会

場までには貸切りバスで案内する所存です。
会員の皆さま、ぜひお越しください。多くのご参加を
心よりお待ちしております。

(第136回大会実行委員長 禹 宗杭)

3. 第137回(2018年度秋季)大会の開催予告および報告募集

第137回大会は以下のように開催いたします。

日時：2018年9月15日(土)～9月16日(日)
会場：北海学園大学 豊平キャンパス
■9月15日(土)書評分科会、自由論題、テーマ別分科会
■9月16日(日)共通論題

「半福祉・半就労」を考える

- 座長：福原宏幸 会員(大阪市立大)
- 報告者：①吉永 純 会員(花園大学)
②櫻井純理 会員(立命館大学)
③津富 宏 会員(静岡県立大学)
④山村りつ 会員(日本大学)
- コメンテーター：大友芳恵 会員(北海道医療大学)

* 自由論題報告、テーマ別分科会の募集日程は以下の
とおりです。

・募集案内の告知	2018年2月28日(水)
・募集開始	2018年4月13日(金)
・募集締め切り	2018年5月16日(水)

**第137回大会は開始時期の都合で、第135回大会時
より日程が早まっていますのでご注意ください。自
由論題報告、テーマ別分科会開催をご申請の方は、
併せて学会ホームページ上の「第137回(2018年度
秋季)大会自由論題報告、テーマ別分科会の募集に
ついて」をご覧ください。フルペーパー・ファイルの
提出期間は8月20日(月)～8月27日(月)を予
定しています。締切の厳守をお願いいたします。

(秋季大会企画委員会 熊沢 透・杉田菜穂)

4. 第137回(2018年度秋季)大会実行委員会からのお知らせ

第137回大会実行委員会からのお知らせ
(ご予約はお早めに)

9月15、16日に北海学園大学(札幌 豊平キャン
パス)で第137回大会を開催します。札幌では、様々な
イベントが開催されますとホテルの予約が困難になる
こともあります。この週末は3連休ですので、交通機関

とホテルの手配はご自分でお早めにお済ませください。
開催校が宿泊施設を斡旋することはありませんので、
ご了解ください。よろしくお願いいたします。

(第137回大会実行委員長 中園桐代)

5. 第135回(2017年度秋季)大会報告

社会政策学会第135回大会(2017年度秋季)は、
10月28日(土)、29日(日)の両日、名古屋の愛知学
院大学名城公園キャンパスで開催されました。10月も
下旬というのに運悪く台風22号が接近しており、天候
不順のなか272名の方々の参加がありました。とくに
2日目は台風が東海地区に上陸するかもしれないという
ことで、当日参加を見送った方が結構出たのは残念
です。天候さえよければ、300名を軽く超えただろ
うと思います。

愛知学院大学での全国大会はこれが最初です。私的な
ことで恐縮ですが、筆者は第109回大会(2004年度秋季)
が大阪市立大学で開催されたとき、実行委員長を務め
ました。今回も実行委員長となりましたので、2回目とな
ります。一度担当していますと、おおよそのことはわか
ります。ただし、今回は大学内に学会員がほとんどいな
いという状況でした。そのため、実行委員会体制を組む
にあたって、近隣の大学の学会員にも協力を仰ぐことに

なりました。渡邊幸良会員(同朋大学)、五十畑浩平会員
(名城大学)のお二人から承諾が得られ、実行委員会と
しての準備が進んでいくこととなります。

本学の名城公園キャンパスは、2014年度にオープンし
ました。決して広くない敷地内に教育施設、学生施設、
食堂等がコンパクトに配置されており、しかもそれぞれ
が回廊で結ばれているという点に大きな特徴があります。
今回の大会のキャッチフレーズとして「コンパクトなカン
ファレンス」を前面に打ち出したのはそうした事情が
ありました。先にふれましたように、台風の影響で2日
間雨が降り続けました。しかし、回廊のもとで移動がで
きるため、参加された方々にはそれほどご不便をおかけ
しなかったのではないかと考えています。

開催校としての大会の準備は、会場となる教室を押さ
えること、プログラムに記載するお知らせやマップ等
必要事項の作成、懇親会の会場確保と受け持ち業者依頼
が中心となりました。プログラムの本体作成は企画委員

会、それ以外の大会関連業務は委託業者に任せるという3分担方式で臨みました。数か月前からバタバタし始めますが、大体予定していたスケジュール通り進めることができたのではないかと思います。とくに、会場となる教室にパワポ等必要な最新の機器がすべて設置されていたので助かりました。

実行委員会は3名でしたが、開催日には入会したばかりの二谷智子会員がサポートしてくれました。それに加えて筆者のゼミ生を総動員いたしました。事前の名札整理、大会資料の袋詰め等をはじめとして、当日の受付、会場管理、懇親会進行等、様々な分野でよく動いてくれました。しっかり役割分担を行い、遂行業務のポイントを指導しておけば、結構やってくれることを痛感した次第です。何名かの学会員から学生委員のテキパキした働きについてお褒めの言葉を頂戴することもできました。彼らにとってもめったに経験することができない機会であり、大いに勉強になったと思います。

大会1日目は分科会中心で進みました。会場は同じ棟に集中していましたので、主に上下移動だけで済みました。また、前年秋の同志社大学のときの大会にならって、1つの教室に大会本部、休憩室、書籍展示のコーナーを設けました。これは極めて合理的なやり方で、今後できるだけ継承されていくべきだと思います。そのためには、少し広めで、机、椅子が動かせる可動式の教室が必要になってきます。前日運び込まれる大量の展示用書籍を保管する倉庫も教室のすぐ近くに確保できたことはラッキーでした。

1日目に臨時総会があり、終了後10階建てのタワー最上階にある会場で懇親会を開催いたしました。約130名の参加があり、大変な盛会となりました。食事のメニューは名古屋ならではのものをご用意いたしま

した。また、大阪経済大学で第127回大会(2013年度秋季)が開催されたとき、懇親会で設けられた「地酒コーナー」が大好評だったため、今回も愛知県の地酒を揃えましたところ「完飲」となり嬉しい限りです。ライトアップされた名古屋城の夜景を楽しみながらの懇親会は、のど自慢も飛び出す大フィーバーとなりました。

2日目は共通論題でしたが、次第に風雨が強まり出しました。当日のみ参加予定者も結構いましたが、残念ながらその多くの方々が参加を見送られました。また、午後になると会場を後にする数が増え始めていきます。そうしたなかで、最後の最後まで報告・討論に熱心に参加された方々がおられ、会場は緊張感に包まれ続けました。

なお、今回聴覚障害対応の措置が取られました。大会では初めての試みです。ご尽力くださった熊沢透委員長をはじめとする秋季大会企画委員会のメンバーの方々にお礼申し上げます。

最後に大会会計について、一言触れておきます。本学の名城公園キャンパスの施設利用料が非常に高く、予算を圧迫いたしました。最新の設備でやむを得ないところもありますが、それでも厳しく、大学から学会開催助成金を得ることが出来ましたので負担は少し軽減されました。今回はそうした事情があるなかで、何とか収支のバランスをとることができたということです。最後になりますが、遠藤公嗣代表幹事をはじめ関係者の方々のお力添えで無事に大会を終えることができました。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

(第135回大会実行委員長 玉井金五)

6. 第135回(2017年度秋季)大会会計報告

収 入		支 出	
学会より大会開催費として	¥1,500,000	AC Planning への支払い (印刷代含む)	¥930,092
書店の広告・出展料	¥153,000	施設利用料	¥588,330
事前振込み：弁当代 (68名)	¥68,000	機器保守点検料	¥68,000
事前振込み：懇親会費 (91名)	¥455,000	懇親会代 (¥596,700)	¥731,700
当日支払い：懇親会費 (40名)	¥240,000	弁当代 (¥135,000)	
愛知学院大学より学会開催助成金	¥348,838	学会手伝いのアルバイト代	¥363,434
		飲料器リース代	¥5,400
		実行委員会事務費 (文房具・郵送料等)	¥74,642
		各種振込料	¥3,240
収入合計額	¥2,764,838	支出合計額	¥2,764,838

7. 次期幹事の辞退と補充について

第 35 期（2018-2020 年）役員選挙の結果について、関東・甲信越ブロックの選出幹事（定員 9 名）に当選した布川日佐史会員より、在外研究のため幹事に就任できないとの申し出があった。幹事会は辞退の申し入れを承諾し、選挙管理委員会は会則第 14 条に基づき、関東・

甲信越ブロックの次点当選者である首藤若菜会員を選出幹事として選任した。

（幹事会・選挙管理委員会）

8. 『学術の動向』について

本学会は 2017 年秋の総会決定で日本学術協力財団の賛助会員となっています。日本学術協力財団は『学術の動向』を毎月刊行しています。『学術の動向』毎月号は有益な記事を掲載していて、J-STAGE で公開されています

ので、会員各位は J-STAGE をご利用ください。

（代表幹事 遠藤公嗣）

9. 2016-2018 年 期幹事会報告

第 12 回幹事会 議事録

日 時：2018 年 2 月 4 日（日）14：00～17：10
場 所：明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント 3 階 403N 演習室

出 席：阿部（彩）、阿部（誠）、埋橋、榎、遠藤、鬼丸、
垣田、熊沢、嵯峨、杉田、鈴木、玉井、塚原、
戸室、平岡、山縣、渡邊

欠 席：居神、上原、下平、久本、藤原、宮本、相馬

1. 顧問の指名について

遠藤代表幹事より、会則第 22 条（1）に基づき、2018 年～2020 年の期の顧問として高田一夫、上井喜彦、森建資、阿部誠の 4 会員を、2020 年～2022 年の期の顧問として玉井金五、遠藤公嗣の 2 会員を指名したいとの提案があり、了承された。

2. 次期幹事辞退と補充について

遠藤代表幹事より、次期幹事に当選した布川日佐史会員より、在外研究のために次期幹事を辞退したいという申し出があつて、これを認めたとの報告があり、了承された。なお補充には、次点であった首藤若菜会員が選挙管理委員会により当選と決定された。

3. 春季大会企画委員会報告

榎委員長より、第 136 回大会準備についての報告があった。テーマ別分科会で 4 本、自由論題で 14 本の応募があり、すべて採択された。なお、テーマ別分科会の 1 つにおいて、報告者がすべて海外からの招聘であるため、国際交流委員会との共催開催とするということで、了承された。博士論文報告会については、8 名の応募者があつた。このうち、学位取得見込み者については、取得を条件に参加を認めることとした。教育セッションについては、「博士論文を出版するまで」とし、共通論題

のタイトルは「所得政策の現在」とし、追加のコメントーターについては百瀬優会員とすることで、了承された。なお、第 135 回大会ではじめて行った聴覚障がい者への情報保障の対応（一応の費用上限は 10 万円とする）については第 136 回大会でも行うこと、この後の大会でも、大会開催校の事情が許すとの条件のもとで行うことが、了承された。

4. 秋季大会企画委員会報告

熊沢委員長より、137 回大会の準備状況及びスケジュールについての報告があつた。共通論題のテーマは「半福祉・半就労を理論と就労から再検討する（仮）」とすることで、座長は福原宏幸会員とし、報告者は吉永純、櫻井純理、津富宏、山村りつ、の各会員、コメントーターは大友芳恵会員とすることで、了承された。なお、大会期間（9 月 15、16 日）は札幌での宿の確保が困難なため、早めの予約を HP 等で呼びかけることとした。また、開催校の会議室の数が不足しているため、専門部会については、会議室の確保が困難であったり、相部屋となったりする可能性があり、このことを、会議室希望を募るときに専門部会にあらかじめ通知することとした。

5. 国際交流委員会報告

鈴木委員長より、国際交流分科会（LERA とのジョイント・セッション）の座長は鈴木委員長、コメントーターはチャールズ・ウェザーズ会員、報告者は Janice Bellace 氏と柴田徹平会員が務めることで、了承された。また、日韓の研究交流事業において、相馬副委員長を韓国社会政策学会大会に派遣することで、了承された。なお、相馬会員の訪韓の際に、日韓の社会政策学会で大会日程が被るケースがあるので、大会日程が決まりしだい、大会日程を相互に通告することの慣例化の希望を伝えてもらうこととした。

6. 学会誌編集委員会報告

嵯峨副委員長より、投稿論文の投稿状況についての報告があった。

7. 第 135 回大会実行委員会報告

玉井委員長より、大会の会計報告があり、了承された。

8. 日本経営学会・社会政策学会共催公開シンポジウムについて

遠藤代表幹事より、本シンポジウムを 2018 年 6 月 23 日に明治大学リビティタワーにて両学会の共催で開催すること、その成果を本として出版すること、そして、これらについては遠藤代表幹事が担当することの提案があり、了承された。

9. J-STAGE への旧学会誌の追加登載の進捗状況について

塚原事務局長より、以前の幹事会が行った旧学会誌の PDF 化したもの (CD に収録) について、J-STAGE への登載漏れがあったので、その作業を業者 (複数の業者から見積もりをとり、安い方に決定) に依頼し、登載を終えたとの報告があった。なお、旧学会誌のうち、登載漏れの巻 (号) がいくつかあるので、これについての対応は次期幹事会に委ねることで、了承された。

10. 日韓の研究交流の推進に関わる協定書について

遠藤代表幹事より、更新される本協定書に署名したとの報告と、今後は、問題がなければ、原則的に 2 年ごとの自動更新とすることの提案があり、了承された。

11. 英文ニューズレター (JASPS Bulletin) の発行について

平岡幹事より、JASPS Bulletin の 1 号の記事 (英文) は、学会紹介と第 135 大会の報告要旨とし、芳文社に見積もりをお願いしているので、問題なければ、そこをお願いしたいこと、送付先は、本学会 HP のリンク集にある国際機関、さらには過去の大会に参加した外国人研究者をリストアップして決めたいとの提案があり、了承された。

12. 人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会について

お茶の水女子大学の永瀬伸子教授より、平岡幹事経由で、「人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) : ギース」への本学会の加盟と本会員へのアンケート調査への協力の依頼があった。しかし、この組織の会則がない状況なので、組織の整備を待って再検討することとした。

13. 『学術の動向』について

遠藤代表幹事より、昨秋から本学会が日本学術協力財団の賛助会員となった結果、代表幹事のところへ雑誌体の『学術の動向』毎月号 1 部が届いているが、『学術の動向』は J-STAGE へ公開されているので、関心のある会員はそちらをご覧くださいとの報告があった。

14. 社会政策関連学会協議会報告

阿部誠幹事より、社会政策関連学会協議会で開催するシンポジウム企画についての報告があった。2018 年 6 月 30 日に明治大学にて、学会誌への論文の投稿を考えている大学院生への支援につながる企画を行うとのことであった。

15. 社会保障国際論壇への後援について

阿部誠幹事より、社会保障国際論壇への本学会の関わり方についての問題提起があった。現在、この論壇へは、本学会の「日本・東アジア社会政策部会」が日本側の主催団体となっているが、中国側より、社会政策学会が主催団体となってもらいたいという要望が出されている。もし社会政策学会が日本側の主催団体となった場合に、本学会と国際論壇とのあるべき関係について検討すべきことがいくつかあり、この案件については、阿部誠幹事の下で、たたき台を作成してもらったこととした。

16. 会員入会について

10 名の入会申し込みを承認し、1 名の入会申し込みを承認しなかった。

17. 次回の幹事会の日程

次回の幹事会 (第 13 回) は、2018 年 4 月 21 日 (土) の午後に明治大学駿河台キャンパスにて開催予定で了承された。

10. 2018-2020 年 期 幹 事 会、第 1 回 準 備 会 報 告

日 時 : 2018 年 2 月 4 日 (日) 17 : 15 ~ 17 : 45

場 所 : 明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント 3 階 403N 演習室

出 席 : 阿部 彩、石井まこと、岩永理恵、禹 宗杭、
埋橋孝文、榎 一江、遠藤公嗣、鬼丸朋子、
垣田裕介、上村泰裕、熊沢 透、杉田菜穂、

玉井金五、戸室健作、吉村臨兵
欠 席 : 伊藤大一、大沢真理、首藤若菜、所 道彦、
兵頭淳史

選出幹事の互選により、次期代表幹事として、埋橋孝文会員を選出した。

11. 承認された新入会員

氏名	所属	専門分野
佐藤 英仁	東北福祉大学総合福祉学部	社会保障・社会福祉
野辺 陽子	高知県立大学地域教育研究センター	社会保障・社会福祉 生活・家族
梶原 豪人	首都大学東京人文科学研究科	社会保障・社会福祉 生活・家族 その他
渡辺 寛人	東京大学大学院総合文化研究科	社会保障・社会福祉
藤田 孝典	聖学院大学人間福祉学部	社会保障・社会福祉
田中 恒行	日本経済団体連合会	労使関係・労働経済
高松 耕一	大阪市立大学大学院生活科学研究科	社会保障・社会福祉
仲地 二葉	中央大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
近間 由幸	立命館大学大学院社会学研究科	労使関係・労働経済
青木 紀		社会保障・社会福祉 生活・家族

12. 訂正

「Newsletter」前号（通巻93号）の「9. 2016-2018年
期幹事会報告」の春季大会企画委員会報告にて、共通論

題報告者の久本憲夫会員の名前が抜けていました。訂正
してお詫び申し上げます。